平成 25 年度 学内研究助成金 研究報告書

研　究　種　目	□奨励研究助成金	□研究成果刊行助成金
	□21 世紀研究開発奨励金 （共同研究助成金）	■21 世紀教育開発奨励金 （教育推進研究助成金）
研 究 課 題 名	ユニバーサルパスポートとコピペ判定ソフトの組み合わせによるレポートや卒業論文等の論述論証指導の効率化と改善	
研究者所属・氏名	研究代表者：経済学部国際経済学科　濵田　太郎	

１．研究目的･内容

本研究は、ユニバーサルパスポートの有効活用方法を近畿大学の全教職員で共有することを目的とし、その活用方法の１つとして、コピペ判定ソフトであるコピペルナーを組み合わせて用いることで、レポートや卒業論文等の論述論証指導の効率化と改善を図るものである。加えて、本研究は、ユニバーサルパスポートの活用を通じて判明した機能上の問題点について、その改善を提唱することで、その更なる有効活用を図ろうとするものである。

２．研究経過及び成果

１．研究経過

平成 26 年 4 月東大阪キャンパスにユニバーサルパスポートが導入され、学生に対する課題管理が容易に行えるようになった。この課題管理機能を用いれば、期限を定め学生にレポートや卒業論文を電子データの形式で提出させることができる。学生はいつでもレポート等を提出することができ、かつ自分自身でレポート等を提出したか否か確認できる。加えて、教員が採点結果やコメントを学生に伝えることができる。教員から見てレポート等の提出物の管理が一元化され容易である。従前の事務室提出と異なり提出に際し事務職員の手を煩わせることもない。学生及び教職員にとってレポート等の提出管理が効率化できる。

経済学部及び法学部の複数の専門科目において学生に対してレポート等の提出を義務付ける旨シラバスに明記し、学生からユニバーサルパスポートを経由して電子データでレポート等を提出させた。卒業論文も同様にユニバーサルパスポートを経由で提出することとした。

ユニバーサルパスポートによって提出されたレポート等の剽窃（コピペ）を判定するために、コピペ判定ソフトであるコピペルナーの判定機能を用いた。コピペルナーは、提出されたレポート等の①インターネット上の情報との類似性及び②レポート相互間の類似性を瞬時に判定した。教員は、これまで直感的に行っていたコピペ判定を容易、客観的、短時間に行うことができ、かつ、より効果的な学生指導も行うことができる。すなわち、コピペルナーを用いることで、①どの程度コピペしたかの割合や相互関連性を明示可能である、②インターネット上の情報（リンク先等）が保存され学生指導でコピペ元を明示可能である、などのより効果的かつ省力化された学生指導が可能である。

コピペルナーの判定結果を講義でプロジェクター等を用いて実名で表示し、その内容について講評し学生指導を行った。

２．成果

（１）得られた事実

多くの学生が安易かつ罪悪感の乏しいままにコピペを頻繁に行っていることが判明した。

講義等においてコピペルナーの判定結果を用いて講評することで、①コピペは容易に露見すること、②コピペは思考停止を意味するがゆえに道徳的に許されないこと、③内容も理解しないままの教科書丸写し・丸暗記は学修方法として不適当であること、④卒業論文においては引用規則を遵守し引用すべき情報を精査・取捨選別すること等、多くの学生が観念してコピペの問題点を正確に理解した。

ユニバーサルパスポートを用いた課題管理は文系の多人数講義に十分適応していない。例えば、複数教員による共同管理や一括 PDF 変換機能が将来的に盛り込まれることが望ましい。一括製本や卒業論文製本のように、既に本学が委託等の契約関係にある富士ゼロックスドキュメントセンターやナカバヤシと連携し、ユニバーサルパスポートで提出されたレポートや卒業論文の印刷・製本について教員の手間暇を削減しかつ学生サービスの水準を高める一体的なソリューションを提供すべきである。

（２）成果発表

平成 26 年 3 月 14 日、経済学部 FD 研修会で本研究の成果報告を行った。コピペルナーの考案者である金沢工業大学杉光一成教授とユニバーサルパスポート開発企業である日本システム技術株式会社の開発者を招待しパネルディスカッションを行い、出席者を含め意見交換を行った。経済学部だけでなく他学部からも多数の出席者があり、非常に有意義な意見交換を実現した。ユニバーサルパスポートを用いた課題管理が今後より多くの教員にさらに普及することが期待される。また、その機能上の問題点や改善要望についても意見交換を行った。今後も日本情報システム技術株式会社がユニバーサルパスポートについて定期的な機能改善を行うことが期待される。

学内希望者に対し、本助成金で購入したコピペルナーのライセンスを配布した。

平成 26 年 8 月 8 日開催予定の私立大学情報教育協会「平成 26 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会」において研究発表を行う予定である。

３．本研究と関連した今後の研究計画

平成 26 年 8 月 8 日開催予定の私立大学情報教育協会「平成 26 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会」において「提出課題管理ソフトとコピペ判定ソフトの組み合わせによるレポート・卒業論文等の指導」との発表題目で研究発表を行う予定。

４．成果の発表等

発　表　機　関　名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日(予定を含む)
私立大学情報教育協会 平成 26 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会	口頭発表	平成 26 年 8 月 8 日（予定）